

福音の園だより

平成十八年度「高齢者雇用優良事業所協会会長賞」受賞
TBSラジオ『MAYのさきやまのこころ』取材総介施設

グループホーム・デイサービス介護保険事業者指定
350・0016 埼玉県川越市木野目一八七八番地一
特定非営利活動法人 福音の園・埼玉 事務局
☎049・230・1111 (FAX)230・1112

ご家族の声

人生の終末を託す最も頼れる人

「神のご加護」としか思えないような不思議な経緯により本年六月に舅姑(りょうしん)を福音の園でお預かり頂くことになった。入所前後、度々施設職員と話し合う機会が与えられる中、私はある職員の発言に深い感銘を覚えた。それは

「入所者が快適に過ごせるよう配慮すると同時に、私たちは職員も出来る限り楽にお世話出来るよう考慮しなければならない」という内容だった。

高齢者介護の社会的必要が多種多様になるにつれ、介護専門職が受け入れなければならないストレスは数限りなく、その結果、彼らが多く的心労にさらされている現実を私も身近な例で見ている。そうした中、入居者と介護職員双方への配慮が第一になされている福音の園の介護体制は、私には舅姑の人生の終末を託すに最も頼れるものであった。

この出会いの幸いに感謝するばかりである。(M・M)



祝 二〇〇九年クリスマス

『きょうタビラの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになった。この方こそ主キリストです。』

新約聖書 ルカの福音書一章十一節

「みんな、いい子なんだからー!」

グループホーム 福音の園・川越 ホーム長 杉澤 卓巳
八三才の元中学校長の恩師を慕って七〇代の教え子十一人が来訪面会下さった。「これは皆様に入居案内するものではなく、K恩師が暮らしているホームをご紹介したくて用意した園便りとパンフレットです」と、ご挨拶方々差し上げた。これほどまでに慕われているKさんとはどんな中学校教師だったのか興味津津だった。ある時、他のご利用者を介助するスタッフに向かって「オイ気をつけるよ、みんないい子なんだから!」と発する言葉を耳にした。教え子を別け隔てなく公平に観る教師だったのだと突き止めることができた。そして、元教師だった方の言葉を思い起こした。

南国・九州の熊本県から雪国・新潟県の、豪雪地で日本スキー発祥の地 旧高田市(上越市)に赴任された方が、雪国・高田での思い出のように詠んだ。

『雪深き土地なれば、雪もまだ一尺ほどは積もりいり、春の景色もなき心地ながらも、雪の間より咲きそめし梅の花は、雪なき里に咲けるよりひとときわ愛らしきように思われ候(そうろう)』 赴任先の校庭に咲く梅の花。豪雪により雪囲いも空しく枝がへし折れ、見るも無残で痛々しい。ところが、残雪の中に咲く梅は、これまで出身地の熊本で毎年目にしてきた、枝振りより咲く満開のどの梅よりも美しかった。梅の木と巣立って行った教え子らが重なり、彼らの消息を知るにつれ、立

身出世した教え子だけに関心を寄せていたけれども、失敗や挫折の中から這い上がって頑張っている教え子にこそ声援を送らなければいけなかったという自戒を込めて詠まれた一句だったに相違ない。

聖書は、「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」(新約聖書・ヨハネの福音書3章16節)と、神の御子イエス・キリストの降誕を告げている。殺戮(きつりく)、憎しみによる争い・戦争が繰り返されているのが私たちの住むこの「世」である。それなのに、神はこの世界を愛されて大切な独り子をお与えになったのだと。神の目には「みんないい子なんだから」「ひとときわ愛らしきように思われ候」だったのだ。御子イエス・キリストをクリスマスプレゼントして下さった天の神様、「ありがとうございます」。

スタッフ紹介

優つたご包まで、大好きなごまっただ

こちらで勤務をし二年となりました。十代の頃は保育士を目指し、その後二十二年間程外食業に従事。今は「福祉」と「食」そして大好きな音楽を結び、何かができないかと夢を追う毎日です。

介護という職種は初めてで、正直とまどいもありました。でも利用者さんやご家族の皆さん、共に働く仲間の優しさに包まれ、この仕事が好きになりました。

この先、介護福祉士資格取得を目標に、皆さんと笑顔で楽しく、日々過ごしたいと思います。皆さんに感謝しています。(一階・介護職 安藤 登美子)

御礼 渋柿

神田 智 様川越市小中居

手打ちそば昼食会

『百丈』鈴木丈夫様川越市元町

ジャガイモ一五〇kg・玉ネギ他 富樫農園様北海道共和町

